

哺乳・育成期の飼養環境改善に向けた実証 ～訓子府実証農場での事例～

営農支援センター 訓子府実証農場 畜産技術課
TEL:0157-47-2192
E-mail:kunneppu-chikusangi.jutu@hokuren.jp

背景

酪農現場において哺育育成期の飼養管理は、後の生産性に直結するため非常に重要です。訓子府実証農場では、子牛の哺乳・哺育期間における冬場の体重増加の伸び悩みが課題でした。今回は、2019年から実施した子牛管理の改善事例をご紹介します。

改善事例

○寒冷対策

- ・カーフジャケットの着用を早める
- ・カーフハッチへの電熱ヒーターの取り付け

○環境衛生対策

- ・哺乳ロボット周りのふき取り検査結果をもとにした清掃方法の変更（乳首やホースなどの洗浄・消毒強化）
- ・定期的な煙霧消毒の実施、冬季の牛舎換気（日中）

○ストレス緩和対策

- ・ストレスのかかる作業の分散（離乳・徐角・群移動等）

⇒これらの取り組みを SOP（作業標準手順書）に反映



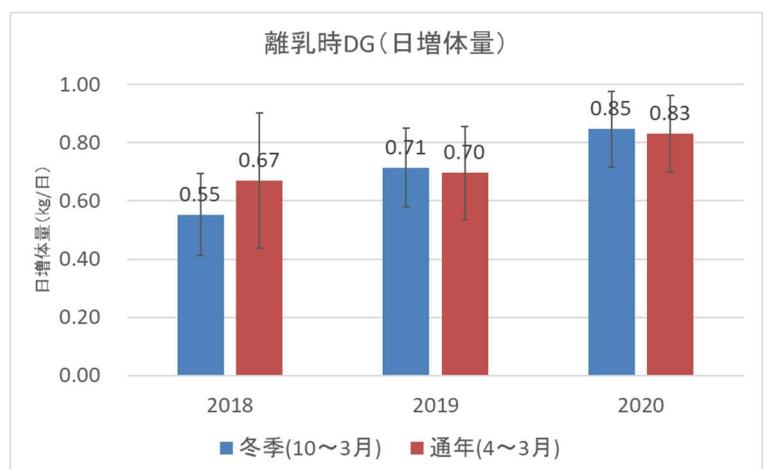
写真：ハッチ内への電熱ヒーター取り付け



写真：作業現場へ SOP 設置

改善後の効果

上記の取り組みを実施したことで、徐々に離乳時体重の改善が見られるようになりました。右グラフは2018年から2020年までの離乳時の DG（日増体量）です。2018年は冬季の DG が低い状況でしたが、徐々に改善されています。上記の改善項目を1つだけ実施しても効果が見えないかもしれませんが、SOPなどを活用して、作業を1つ1つ加えながら継続的に行うことが、改善効果を実感できる一番の近道かと思います。当農場では、まだまだ冬期間の落ち込みを完全に克服できた訳ではないため、今後も継続して改善に向けた取り組みを実施していく予定です。



グラフ：離乳時 DG（日増体量）の推移

2018年は冬期間の DG が低く推移した。

2020年は目標の DG0.8 kg/日を達成したが、冬期間においてはばらつきが大きいいため、今後も改善が必要。